

事業名	オアシス整備事業（ため池等整備事業）		事業主体	大阪府
所在地	岸和田市池尻町、岡山町		地区名	久米田池
再評価理由	②事業採択後5年を経過	採択：H3年度	工期	H3年度～H13年度
事業概要	目的	久米田池は府内で最大規模の水面積45.6haを有し、周囲2.6km、貯水量157万tのため池で、歴史的にも古く、狭山池と並び、大阪府の史跡に指定されており、地域の人々に親しまれている。 本事業は、老朽化したため池の改修とこの池の持つ歴史、文化、人々の愛着等に配慮した親水・修景護岸や遊歩道、植栽等の整備を行い、農業用水の確保と災害の未然防止を図るとともに、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える水辺環境を創造することを目的とする。		
	内容	堤体工376m、護岸工2,640m、余水吐工1箇所、取水工2箇所、浚渫工1式、親水・修景護岸工1式、遊歩道整備1式、水質保全対策工1式、植栽工1式 事業費 2,537,000千円		
	関連事業	都市計画道路田治米畑町線（岸和田市事業）		
進捗状況等	進捗状況	堤体工376m、護岸工2,204m、余水吐工1箇所、取水工2箇所、浚渫工1式、親水・修景護岸工1式、遊歩道整備1式、水質保全対策工1式、植栽工1式、 工事進捗率 89.8%		
	残事業	護岸工436m		
	事業着手	平成3年度		
事業を巡る社会経済情勢等	歴史的背景	久米田池の築造は、奈良時代の神亀2年（西暦725年）から天平10年（西暦738年）の14年の歳月をかけて行われた。当時、久米田池北西に位置する八木郷一帯は、水量少ない天の川に頼っていたが、干ばつに苦しめられていたことから、僧行基、橘諸兄が農民を集め、久米田池を築造した。 その後、岡山町寄りの物部田池と久米田池をひとつにし、現在の久米田池となった。当時の水込めは、現在の春木川から行われており、以後、改修を繰り返してきた。 池端に建つ久米田寺は、行基が天平6年に開創した名刹であり、久米田寺は昭和14年、また、久米田池は昭和16年に大阪府の「史跡・名勝」に指定された。		
	地域の状況	本地区は、古くからため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稻の他にたまねぎ、里芋、キャベツ等が作付けされており、中でもたまねぎの一大生産地を形成している。久米田池は、この地域の農業用水として80haの農地を潤しているだけでなく、養魚も行われ、冬季には水鳥が飛来するなど、豊かな自然資源として貴重な存在となっており、風致地区として指定されるほどの美しい景観を有している。 また、久米田池及びその周辺では、年間を通じて、以下のような行事に利用され、地域の人々に親しまれている。 1月：大とんど祭、久米田池の泥流し 2月：開山行基忌（久米田寺） 4月：久米田池桜祭 8月：灯籠流し 10月：行基祭（だんじり）、久米田池周り清掃（ボーイスカウト等による） 毎月20日・21日：久米田寺月参り		

事業名	オアシス整備事業（ため池等整備事業）	地区名	久米田池
事業を巡る社会経済情勢の変化	<p>ため池は、農業用水の確保はもとより豪雨時に洪水被害から下流域を守る防災機能も有している。しかし、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでおり農業団体はもとより周辺住民からの改修要望が増加している。</p> <p>オアシス構想策定（H3）の際に行ったため池関係のアンケート調査（無作為に抽出した20歳以上の府民1,000人を対象）では、府民はため池のもつイメージとして、「農業用水」との意見が47.1%を占めている。一方、農業用水としての利用度が減ったため池については、「保全しつつ地域ニーズを考慮した利用をすべき」や「現在もっている効用を利用すべき」等の潰廃すべきでないという意見が88.1%を占め、さらにため池の整備の方向としては、「散歩」「生態観察」「魚釣り」「休息」等多様な整備内容を望んでいる。</p> <p>また、平成9年の府政モニター300人に行った、農空間基本方針策定調査によると、ため池を含む農空間への期待については「農空間の余暇的活用」が56.5%、「農空間の保全・整備」が37.0%、「交流・PR・イベント」が33.3%、「教育・福祉的活用」が21.3%、「食料生産」が17.0%であった。</p> <p>以上の結果から、ため池については、災害時に水や空間が利用できる地域防災機能や、生態系保全、自然学習、レクリエーションのための空間としての機能に対する府民の関心と要望が高まっていることが伺える。</p> <p>こうした状況から、久米田池の周辺地域では、地域の人々がオアシス整備の主役として参加するため池環境コミュニティとして、久米田池環境づくり推進協議会が平成3年11月に設立された。この協議会は、地元土地改良区、久米田寺、住民代表等38名で構成され、久米田池のオアシス整備の構想づくり、維持管理への参加、環境づくりに対する啓発を目的としている。</p> <p>現在、久米田池では、整備された遊歩道をジョギングや散策する人々の姿が数多く見られ、地域の憩いの場、やすらぎの場として有効に活用されている。</p> <p>特に、久米田池の整備が進むにつれ、ため池環境コミュニティだけでなく、周辺の自治会やボーイスカウト等も定期的に池周辺の清掃活動を行うなど、地域住民による自発的なオアシス活動が広まっている。</p>		
事業効果（費用対効果分析等）	別紙ー1参照		
その他特記事項	<p>当池の残工事区間（護岸工436m）と並行して、久米田池西側の岸和田市が実施する都市計画道路事業（田治米畑線）があり、当池を一部埋め立てることにより、道路事業用地を確保することとしている。しかし、現状では、用地買収に係る地元調整が遅れており、当池の護岸工の進捗に影響している。今後、道路事業者と施工範囲の調整を進め、早期完成を目指す。</p> <p>事業完了後の清掃、補修等、施設の維持管理は、久米田池環境づくり推進協議会を中心に、地域住民や地元土地改良区等が行う。</p>		
（事業概要図）別紙ー2参照			